限つては二時間或は一時間やればいゝといふ樣な事にする。それならば隨分望み手もありさうに思はれる。肥汲をする事が人の輕蔑を招く樣な社會であれば、如何に勞働時間は短くとも、矢張り多くの人はそれを厭がるであらうが、人が厭がる仕事を引受けるのは當然に社會から感謝される筈であり、そして時間が短いとなれば、殘る時間で自分の好きな事が思ふ樣にやれるのだから、隨分引受手はありそうに思はれる。若し又、過渡時代として分配に差等のある場合であるならば、時間の短い上に分配の割を善くして、それで望み手を拂へるといふ遣方もある筈である。

四

第二。然しそれでも矢張り汚ない仕事の引受手がどうしても無い（或は少い）と云ふ事になつたら、其時は仕方がない、總ての人が順番で（一人づゝか、或は兩人づゝか組合つて）やるまでの事だ。總ての人が順番でやるとなれば、汚ない仕事でもそんなに厭なものではない。それに順番がそう〳〵頻繁に廻つて來る筈もなく、又今日とは違つて、便所の設備も十分綺麗に出來てゐるだらうし、汲取りの器械なり方法なりも至極便利に出來てゐるだらうから、そんなに厭がるものはあるまい。

それに、總ての人と云つても、老人とか、婦人とか、特に他の重要な仕事を受持つてゐる人とかは、此の厄介な役目から免除されるといふ事も自然ありそうに思はれる。或は、青年だけが、其の氣輕な性質と屈强な體力上、或る時期を限つて、一度は必ず面倒な雜役の任務に當るといふ、約束なり習慣なりが出來るだらうと想像してゐる人もある。然しそんな細かい事まで想像してもそれが其の通りに實現されるとは誰も請合ふ事が出來ない。只だそんな事を何處までも氣にする人の爲に、氣やすめとして想像して見るまでの事である。